

平成 22 年度 河川レンジャー年間活動計画(案)

平成 22 年 2 月

枚方管内河川レンジャー	立川 亨一
	上田 豪
	荘司 弘之
	瀬野 卓男
	山口 進

目 次

1.	枚方出張所管内河川レンジャー	立川 亨一	1
2.	枚方出張所管内河川レンジャー	上田 豪	6
3.	枚方出張所管内河川レンジャー	荘司 弘之	26
4.	枚方出張所管内河川レンジャー	瀬野 卓男	33
5.	枚方出張所管内河川レンジャー	山口 進	46

1. 枚方出張所管内河川レンジャー 立川 亨一

1.1 活動テーマと活動分野

枚方出張所管内を活動エリアとする立川レンジャーは以下の活動テーマのもと、5つの活動を実施します。

活動テーマ

人々の生活に恩恵を与える淀川を伝承する。

平成 22 年度 活動分野と活動名

活動分野	活動名
河川環境保全を図る活動	点野わんど外来植物除去作業
	点野わんど植生観察会
	点野わんど水生生物観察会
	点野わんどクリーン作業
	点野わんど野鳥観察会

1.2 河川の環境保全を図る活動

(1)活動目的

点野わんど外来植物除去作業

点野わんどに繁茂している外来植物の除去を行い環境保全に資する。

点野わんど植生観察会

点野わんどを中心とする河川敷に見られる植生の観察を行い、同地域の自然環境を知る。

点野わんど水生生物観察会

点野わんどに生息する魚類や水生生物の観察を行い、同地域の自然環境を知る。

点野わんどクリーン作業

点野わんどに散在するごみを除去し、同地域の美化を図り環境保全に資する。

点野わんど野鳥観察会

点野わんどに飛来する野鳥の観察を行い、同地域の自然環境を知る。

平成 22 年度 年間スケジュール

		実 施	準 備 等
平成 22 年	4 月		
	5 月		
	6 月		現地下見、広報
	7 月	点野わんど外来植物除去作業	スタッフ依頼、用具準備
	8 月		現地下見、スタッフ依頼、 講師依頼
	9 月	点野わんど植生観察会	現地下見、広報、用具準備
	10 月	点野わんど水生生物観察会	現地下見、広報、 スタッフ依頼、用具準備
	11 月	点野わんどクリーン作業	現地下見、広報、 スタッフ依頼、用具準備
	12 月		
平成 23 年	1 月		講師依頼
	2 月	点野わんど野鳥観察会	現地下見、広報、 スタッフ依頼、用具準備
	3 月		

(2)参加対象者・定員

点野わんど外来植物除去作業	一般市民を対象とし定員約 30 名で実施。
点野わんど植生観察会	一般市民を対象とし定員約 30 名で実施。
点野わんど水生生物観察会	一般市民を対象とし定員約 30 名で実施。
点野わんどクリーン作業	一般市民を対象とし定員約 30 名で実施。
点野わんど野鳥観察会	一般市民を対象とし定員約 30 名で実施。

(3)実施内容

点野わんど外来植物除去作業

わんどを中心とする河川敷に繁茂する外来植物の除去。

点野わんど植生観察会

わんどを中止とする河川敷の植生状況の観察。

点野わんど水生生物観察会

わんどを中心とする水域に生息する生物の観察。

点野わんどクリーン作業

わんどを中心とする河川敷に散在するごみの除去。

点野わんど野鳥観察会

わんどを中心とする河川敷に飛来する野鳥の観察。

(4)実施日

点野わんど外来植物除去作業	平成 22 年	7 月
点野わんど植生観察会	平成 22 年	9 月
点野わんど水生生物観察会	平成 22 年	10 月
点野わんどクリーン作業	平成 22 年	11 月
点野わんど野鳥観察会	平成 23 年	2 月

(5)実施場所

点野わんどを中心とする河川敷、付近水域



(6) 広報・募集方法

- ・淀川管内河川レンジャーホームページへの掲載
- ・寝屋川市の広報誌への掲載
- ・ねや川水辺クラブ会員への広報

(7) 協力スタッフ等の人数とその役割

協力スタッフ	ねや川水辺クラブ	若干名	運営補助
講師	大阪府水生生物センター、寝屋川市自然を学ぶ会 ねや川水辺クラブ		

(8) 必要支援内容

国土交通省	資料の作成、用具の準備、現地での通行
-------	--------------------

(9) 活動における河川レンジャーの活動内容

- ・実施計画の立案
- ・講師・スタッフの依頼、連絡
- ・広報活動
- ・資料準備
- ・用具手配
- ・現地下見
- ・当日の運営

(10) 昨年度の活動を踏まえての改善点

- ・寝屋川市以外での広報活動があまりできていなかった。
本年度は大阪府、近隣行政、河川レンジャーの連携にも期待したい。
- ・個別案内状を作成し、公共施設にも配布したい。

(11) 活動を行ううえでの課題等

- ・必要な用具の準備
- ・現地の安全な通行・移動(階段等がない)
- ・生物の生息域の減少(草地が刈られている)

(12) その他

河川レンジャーの活動が広く地域住民、一般市民に知られるよう役に立ちたい。
また、市民と行政が河川環境の向上に協力している姿を啓蒙したい。

2. 枚方出張所管内河川レンジャー 上田 豪

2.1 活動テーマと活動分野

枚方出張所管内を活動エリアとする上田レンジャーは以下の活動テーマのもと、4つの活動を実施します。

活動テーマ

子どもたちに淀川を知ってもらおう学習拠点となるフィールドづくり
子ども・流域市民に、淀川と人とのかかわり・淀川の自然・淀川の歴史・川の楽しさを知ってもらう。

平成 22 年度 活動分野と活動名

活動分野	活動名
河川の適正な利用の推進を図る活動	子どもが安全に遊び学べる水辺の発信拠点づくりパート (外来種草刈、清掃、外来種抑制の植栽実験)
河川の適正な利用の推進を図る活動	淀川丸ごと体験会(葦笛づくり、水辺の昆虫採集、魚とり、舟乗りなど)
淀川に係わる歴史・文化の普及啓発	淀川と人との関りの歴史探求(茨田の樋門跡、点野スーパー堤防緑地、太間船着場、点野わんどの見学会)
淀川に係わる歴史・文化の普及啓発	淀川歩き(枚方～木屋・大間～庭窪間で)
淀川に係わる歴史・文化の普及啓発	茨田樋イチョウまつりと舟乗り体験

2.2 子どもが安全に遊び、学べる水辺の発信拠点づくりパート

(1)活動目的

活動箇所の特徴

太間船着場と点野ワンドの間に位置する点野砂州は砂泥浜と沈床の名残が連続する水辺で、イベント時には船を着けることもでき、ヤナギの大木がまばらな林を形成していて夏場には結構な日陰をつくっている。また、低水護岸のそばには管理用道路が通っているなど安全に利用しやすい場所である。

枚方出張所管内においては、他に自然の豊かな水辺であっても、管理用通路から遠く人気がないなど安全管理に問題があるなど、子どもが安全に川を学び、川を感じることでできる場所は他に見ることができない。

経過

子どもたちの川遊びや学習だけでなく、川の市民活動の拠点には格好の場所であることから、1 昨年、昨年は、大型ごみや砂州や砂浜に埋まったごみを取り除くと共に、次々に種類を変えて成長する外来植物の草刈等の整備を行ない、「淀川丸ごと体験会」や「淀川と人とのかわり歴史探求」などの催しに活用してきた。

引き続き、砂州の外来植物の「種の落ちる前の草刈り」や水辺のミズヒマワリなどの除去作業を続けることで、在来植物の生育を促進し、人が手を入れた里川的自然を実現し、活動拠点として活用する。

また今年は、これからの植生管理も視野に外来種抑制のため、前年度のチガヤの植え付け実験の経過観察を行う。(併せて、堤防でのチガヤ植え付け実験も行う)

外来植物の防除やワンド、砂州の自然を取り戻すため砂州を含む高水敷の切り下げを行い、環境回復を図ることも河川環境回復の手立てである。

大規模なものは、河川整備計画の具体化を待つことになるが、規模は小さくても、市民の参加で地域の計画を練ることが「協働の川づくり」を進めることにつながり、ひいては川と流域市民をつなげることにつながると考える。できれば、そのための行動を始めることができればいいなと思っています。

平成 22 年度 年間スケジュール

		実 施	準 備 等
平成 22 年	4 月	中～下旬草刈開始。 以降、3回/月を目途に草刈作 業、チガヤ植え付け経過観察 は年間を通して行う	
	5 月	中～下旬草刈開始。 以降、3回/月を目途に草刈作 業、チガヤ植え付け経過観察 は年間を通して行う	
	6 月	6 月下旬～7 月上旬(梅雨後 期)集中して草刈作業	
	7 月	2～3回/月を目途に草刈作業	
	8 月	2～3回/月を目途に草刈作業	
	9 月	1～2回/月を目途に草刈作業	
	10 月	1～2回/月を目途に草刈作業	
	11 月	1～2回/月を目途に草刈作業	
	12 月	1～2回/月を目途に草刈作業	
平成 23 年	1 月		
	2 月		
	3 月		

(2)参加対象者・定員

参加対象者 市民団体などと協力して実施

定員 各回定員なし。(昨年 H21 実績は延べ 200 人)

(3)実施内容

外来種の草刈り

(セイヨウカラシナ、ネズミムギ、セイトカアワダチソウ、ナガエ
ツルノゲイトウ、マメアサガオ、ホシアサガオ、オオブタクサ、
アレチウリ、在来カナムグラ等々)

大型ごみの撤去、外来水生植物除去

(ミズヒマワリ、ナガエツルノゲイトウ等)

(4)実施日

平成 22 年 4 月～平成 23 年 3 月

(5)実施場所

点野船着場と点野ワンド間の砂州



(6)広報・募集方法

現在のところ未定であるが、昨年同様、市民団体への要請を主とし、「草刈十字軍」の募集も検討する(広報)

(7)協力スタッフ等の人数とその役割

定常的に参加できるスタッフは数人必要、月に1回は多人数で行う

(8)必要支援内容

寝屋川市	ボランティア車輛の貸し出し、刈払い機の貸し出し、刈り草の処分
国交省	不燃ごみの処分、刈払い機燃料・替え刃等消耗品支援

(9)活動における河川レンジャーの活動内容

実施計画の立案	関係機関との調整
協力スタッフの手配、打合せ	
資料作成	当日の運営

(10) 昨年度の活動を踏まえての改善点

1 昨年は 4 月の草丈の低いときの草刈りが出来ず、5 月連休明けから作業を開始した。

草丈が伸びボリュームも比較にならないくらい大量となってしまった。昨年は、5 月連休前の伸びる前に早めの除去作業を実施し、その後の作業軽減をすることができました。

季節により現れる種類が違うため春のセイヨウカラシナ～初冬まで残るアレチウリまで通年作業は続ける。

セイヨウカラシナなど一部の種が落ちてしまった恐れのあるものもある。種が落ちると次の年に何倍もの作業をすることになるので、種が成長するまでの除去に努めたが、一部種(カナムグラ、アレチウリ)が落ちてしまったりしているので、除去効果に合わせて対応する。

ネズミムギは種ができる前に刈ると次々成長し、結果として種をつけることになるので、今年度は、結実を待って刈ることにする。勿論背丈が高くなり倒れて刈りにくくなると後が困難なので小さく成長させて刈り取るタイミングを図るため 1 回目の刈り取りは昨年同様 5 月連休前にしたい。

21 年度秋には、翌年の春に成長する芽吹きを抑えるため晩秋の草刈を少なくした。

(コウセンタングサを播種させないための枯株の除去は 1 月に実施した)。

21 年度に植えたチガヤ苗、マットの生育モニタリングと 5 月播種を実施し、ネズミムギなど除去効果を検証する。

(11) 活動を行ううえでの課題等

当該場所は、これまで不法耕作が行なわれ、作業小屋やブルーテントの物置などが設置されていたところを、平成 19 年 1 月に河川事務所の努力で撤去され、ヤナギなど樹木の疎林となっていた。一昨年より作業を行い、昨年カラシナなどは劇的に減少している。

その他のイネ科、カナムグラ、アレチウリなどについても全体的に効果が出ているようであるがかつての宿種やこぼれてしまった前年種が芽を吹いているようである。

しかし、チドメグサ類(ノチドメ)、カキドウシなどがグランドカバーとなり広がっている。また、新たにメハジキなどの発見もあった。

(12) その他

高水敷、砂州の切り下げ構想を進められればと考えている。

2.3 淀川丸ごと体験会

(1)活動目的

川に親しむことが少なくなってしまった子どもたちに、川を身近なものに感じていただくため、水辺で一日を過ごし、川の楽しさの体験、川と暮らしや淀川の歴史などの学習を集団活動として行うことで、環境教育的意義・自然の中での共同生活を通じた他人との関係の見直しのきっかけづくりも兼ねた取り組みとする。

平成 22 年度 年間スケジュール

		実 施	準 備 等
平成 22 年	4 月		<ul style="list-style-type: none"> ・実施計画の立案 ・関係団体・機関との打合わせ
	5 月		<ul style="list-style-type: none"> ・広報準備 ・協力スタッフの手配 ・講師依頼
	6 月		<ul style="list-style-type: none"> ・広報活動 ・資料作成
	7 月	淀川丸ごと体験会・外来種除去クリーン作戦	<ul style="list-style-type: none"> ・資料作成 ・講師、協力スタッフとの打合わせ ・機材等直前準備
	8 月		
	9 月		
	10 月		
	11 月		
	12 月		
平成 23 年	1 月		
	2 月		
	3 月		

(2)参加対象者・定員

管内小学校高学年以上 30人 (グループごとに保護者同伴)

(3)実施内容

水辺のデイキャンプ

8時～17時の間で

- ・ Eボート・田舟体験(淀川舟運の学習・親水)
- ・ わんどや水辺の魚とり・生き物観察会(淀川環境・親水)
- ・ 外来種除去など水辺の清掃活動(淀川環境)
- ・ 葦笛づくり(活用)
- ・ 土嚢作り体験(防災)
- ・ 水辺の昆虫採集(トンボなど)

などのメニューを組み合わせる

当日タイムスケジュールの詳細は今後決定していく

昆虫採集は、別途、「光に寄る虫の採集」を夜間に行うことも検討している

(4)実施日

学校の夏休み中に実施 (平成22年7月25日(日))

(5)実施場所

点野わんど、淀川点野船着場、および船着場～わんど間の点野砂州など



(6) 広報・募集方法

丸ごと体験会

- ・ 淀川管内河川レンジャーホームページへの募集案内の掲載
- ・ 寝屋川市の広報紙(7月1日号)への募集案内の掲載
- ・ 小学校での案内チラシでの募集・NPOを通じた呼びかけ
- ・ 申込締切日：広報紙、団体とも 平成22年7月9日(金)

(7) 協力スタッフ等の人数とその役割

協力スタッフ：ねや川水辺クラブ・青年会議所・摂南大学・NPO など
10名

(運営補助・機材の搬入搬出・安全確保など)

講師：本多政雄さん	(葦笛づくり、トンボ採集)
水辺クラブ・摂南大学	(舟乗り体験)
河川レンジャー	(魚とり・生き物調査)
未定	(ネイチャーゲーム)

(8) 必要支援内容

国土交通省：資料の印刷
軍手、タオルの提供(各40+40)
ごみ袋150袋・土嚢袋100袋
河川レンジャーのぼりの借用
引き上げごみ・外来種の処分
生き物調査(魚とり・虫捕り)

寝屋川市：広報掲載手続き
ボランティア車両の貸出し

(9) 活動における河川レンジャーの活動内容

- ・ 実施計画の立案
- ・ 関係機関との調整
- ・ 協力団体との調整
- ・ 講師・スタッフの手配
- ・ 会場整備の手配
- ・ 資料作成
- ・ 広報活動
- ・ 当日の運営

(10) 昨年度の活動を踏まえての改善点

昨年は直前の大雨のため中止した。再度行う。

トンボなどの砂州に生息する昆虫採集を行い、水辺や砂州が生き物にとって貴重な空間であることを感じてもらう。

(11) 活動を行ううえでの課題等

夜間の活動をどうするか(別途実施も)

(12) その他

2.4 淀川と人との関りの歴史探求

(茨田の樋門跡、点野スーパー堤防緑地、太間船着場、点野わんどの見学会)

(1)活動目的

- ・ 上水道のないころから河内平野に生活用水・農業用水を送っていた淀川沿いの取水樋で、現在唯一残る歴史遺産ともいえる点野・茨田の樋の復元整備箇所、
- ・ ワークショップをおこなって市民参画で設計したスーパー堤防の“土砂備蓄緑地”、
- ・ 緊急用船着場でありながら淀川舟運をお思い起こす太間船着場、
- ・ デレーケによる淀川整備の象徴であり生き物の生息場所として貴重なワンドの一つである“点野わんど”とかつての“たまり”の跡などの現地見学を通じて、地域に密着したかたちで川と人とのかかわりについて、小学生を対象に学習をおこなうことで、利水(社会と水・川(淀川)の関係)を主としながら、治水・環境についても学習することで川の大切さ・川のあり方について理解を深めてもらう。

平成 22 年度 年間スケジュール

		実 施	準 備 等
平成 22 年	4 月		・実施計画の立案 ・小学校との打ち合わせ
	5 月		
	6 月		
	7 月		
	8 月		・協力スタッフの手配 ・講師依頼
	9 月		・資料作成 ・講師、協力スタッフとの打合せ
	10 月	淀川と人との関りの歴史探求	
	11 月		
	12 月		
平成 23 年	1 月		
	2 月		
	3 月		

(2)参加対象者・定員

引き続き、小学校から強い継続要望あり

点野小学校の4年生を対象に実施。生徒3クラス約100人及び教諭、保護者、3年生の総合学習で、かつての地域の生活・農業などについて学習していることを踏まえて、かつての地域の生活や生業であった農業生産の基礎となった淀川の学習とリンクさせて理解していただくため4年生を対象とした。

(3)実施内容

学校で全体概要説明 学校出発 徒歩(学校側が誘導)現地へ クラス(3クラス)毎に上記見学箇所に別れ、それぞれの箇所で順次ローテーションしながら見学する(説明・質問)(上記4箇所それぞれに説明員を配置) 全体でまとめ 帰校

10月 日 運動会行事の実施後

点野小学校

- 9時00分: 児童学校集合
- 9時10分: 児童学校出発 徒歩
- 9時40分: スーパー堤防緑地現地到着

スタッフ・関係者

- 9時00分: 関係者集合(スーパー堤防緑地)
関係者打ち合わせ
- 9時45分: はじめのあいさつと概要説明(上田・堤防上)
- 9時55分: 各組各説明ポイントへ移動
 - 4年1組 茨田の樋 スーパー堤防土砂備蓄緑地 船着場
 - 4年2組 スーパー堤防土砂備蓄緑地 船着場 茨田の樋
 - 4年3組 船着場 茨田の樋 スーパー堤防土砂備蓄緑地
 - ・3箇所の説明を終了したクラスから点野わんどに向かう
 - ・説明スタッフ、補助スタッフは各自説明用資料等持って説明箇所まで同行し、各組を定点説明する。説明(質問含む)は10分程度とし、同行スタッフ3人は生徒現地到着後に各クラスに同行または、全体の進行補助をしていただく。
- 11時00分: 点野わんどでの説明開始
 - ・澤井先生 デレーケの水制とわんどの説明・質問 10分
 - ・本多先生 わんどの生物についての説明・質問 10分到着したクラスから順次説明を受け、各クラスが2つの説明ポイントを回る(同時に到着した場合は1クラス、2クラスに分かれる)
- 11時20分: 全体のまとめ(上田)・点野わんど
- 11時30分: 学校に向け出発
- 12時00分: 帰校

(4)実施日

淀川と人との関りの歴史探求 平成22年10月中旬 平日

(5)実施場所

点野・茨田の樋跡、点野スーパー堤防土砂備蓄緑地公園、太間船着場、点野わんど、たまり跡（理由 - 淀川の利水、治水・防災、舟運、環境について現地で学習するのにポイントが集中している適切な場所である）



(6)広報・募集方法

点野小学校と直接調整する

(7)協ラストッフ等の人数とその役割

協ラストッフ：ねや川水辺クラブ・摂南大学など 10 名

内訳 説明員・講師：5 人

- ・茨田の樋 白川氏（地元住民）（補助 水辺クさん）
- ・土砂備蓄緑地 国交省技官さん（補助 水辺クさん）
- ・船着場 国交省技官さん（補助・摂南大生さん）
- ・点野わんど

デレーケの水制とわんどの説明 澤井氏（淀川管内河川レンジャー推薦委員会 副委員長、摂南大学工学部教授）

わんどの生物についての説明 本多氏（枚方出張所管内河川レンジャー運営会議委員長、寝屋川市自然を学ぶ会副会長）

補助スタッフ：

ねや川水辺クラブ、摂南大学など 3 人 各説明ポイントでの補助

同行スタッフ：

ねや川水辺クラブ 3 人

生徒現地到着後に各クラスに同行移動、または活動全体の進行補助

(8)必要支援内容

国土交通省:点野スーパー堤防土砂備蓄緑地、太間船着場の説明員の派遣
資料の印刷
(デレーケ水制、わんど・水際が分かる新旧の地図など)
資料の提供
(船着場の防災的意義と舟運の歴史の分かるパンフレット等)
説明員用小型スピーカー
参加配布物の提供
河川レンジャーのぼりの貸与
保険の加入(学校保険との関連確認) 他
寝屋川市: ボランティア車両の貸し出し、軽3台

(9)活動における河川レンジャーの活動内容

- ・実施計画の立案
- ・学校との各種調整
- ・協力団体との調整
- ・講師・スタッフの手配
- ・資料作成
- ・当日の運営

(10)昨年度の活動を踏まえての改善点

(11)活動を行ううえでの課題等

(12)その他

2.5 淀川と人との関りを探る

(1)活動目的

下流域の淀川左岸は、かつて、生駒山地の麓から大阪湾まで広がる河内湾・河内湖であった。淀川と大和川などの運搬土砂で形成された土地であるという地形的経緯から、水文化は寝屋川より上流域とは異なっている。後背湿地で勾配がないため肥えた土砂が堆積し、蓮池に見られるように泥の沈殿も多い。勿論溪流や早瀬はない。河川は淀川と古川。その他は農業用水路である。

淀川本流から堤などで切り離される以前の、この地域の水の流は、淀川のデルタ地帯として古川筋を始めとする派流が多数分岐していたと考えられている。この肥沃で水に恵まれた生産力の高い土地で、古代から生産・流通の中心であり、地勢状の有利な条件を活かし東アジアなどとの交易も盛んで、難波・奈良・京の都を育んできた。

他方、早くから人口の集中が顕著で都市の発達に比例して、河川や水路にも人の手が加えられてきた地域であり、左岸流域の最上流部に位置する木屋、大間地区は、古くは茨田の堤、秀吉の文禄堤、明治以降のデレーケの沈床、合同樋門と幹線水路・二十箇用水樋・茨田の樋、木屋ポンプ場、近く高度成長時には、寝屋川導水路と国交省寝屋川ポンプ場、大阪府大間排水機場、河川公園、スーパー堤防、そして、食糧生産の研究拠点の淡水魚試験場(水生生物・水辺環境保全に係る調査研究拠点となった現水生生物センター)などが集積し、時代をリードし時代に翻弄された淀川の歴史、人との関わりを垣間見ることができる。

これらの施設や場所を見ながら、参加者に今後の淀川との関わりのあり方を考えてもらう機会を提供する。

平成 22 年度 年間スケジュール

		実 施	準 備 等
平成 22 年	4 月	未 定	日程に合わせて準備
	5 月		
	6 月		
	7 月		
	8 月		
	9 月		
	10 月		
	11 月		
	12 月		
平成 23 年	1 月		
	2 月		
	3 月		

(2)参加対象者・定員

枚方・寝屋川を中心とする管内流域住民と一般市民、定員なし、
30人見込み。

(3)実施内容

茨田の堤、文禄堤、赤井堤防、デレーケの水制、合同樋門と幹線水路・
二十箇用水樋・茨田の樋、木屋ポンプ場、段倉、寝屋川導水路と国交省
寝屋川ポンプ場、大阪府大間排水機場、河川公園、スーパー堤防、水生
生物センターなどの淀川関連施設の中から、実施内容・実施時間に合わ
せて適切な場所を選定し見学会をおこない、参加者に今後の淀川との付
き合いのあり方を考えていただく。

(4)実施日

未定

(5)実施場所

寝屋川市木屋・大間地区などの上記施設を中心としながら、天の川かささぎ橋から守口鳥飼大橋付近までの左岸



(6)広報・募集方法

各市広報・BYQ 情報誌

(7)協力スタッフ等の人数とその役割

移動時などに協力

(8)必要支援内容

当該施設管理者から説明員派遣

(枚方市、寝屋川市、大阪府枚方土木、大阪府水生生物センターなど)

(9)活動における河川レンジャーの活動内容

進行管理、説明

(10)昨年度の活動を踏まえての改善点

昨年、1 昨年は、NPO 団体を対象におこなった。

(11)活動を行ううえでの課題等

(12)その他

2.6 茨田樋イチョウまつりと舟乗り体験

(1)活動目的

住民と市民の連携の証である茨田樋遺跡水辺公園の市民工事を記念した催しを、淀川堤防上を通過していた京街道に面して植えられた地域のランドマークである大イチョウと関連させて行うことで、淀川と地域・人との歴史のかかわりを広く市民に紹介し、今後の川との付き合いを考えていただく機会とする。同時に、地域住民に地域の財産として未永く大切に育てていただくキッカケとする。

合わせて、川の楽しさを知ってもらうためEポートによる幹線水路舟乗り、関係団体によるポスターセッション、市民工事のパネル展示もおこなう。

平成 22 年度 年間スケジュール

		実 施	準 備 等
平成 22 年	4月		地元、市民団体との調整
	5月		
	6月		
	7月		
	8月		
	9月		実行委員会開催、 団体・学校回り
	10月		ギンナン採取、皮むき処理、 広報掲載
	11月	実施	
	12月		
平成 23 年	1月		
	2月		
	3月		

(2)参加対象者・定員

市民、地元住民、流域住民、関係市民団体

(3)実施内容

茨田樋遺跡水辺公園の地元住民、隣接する新住民、流域の市民に呼びかけ、地元住民、市民団体、大学が協力して実施する。

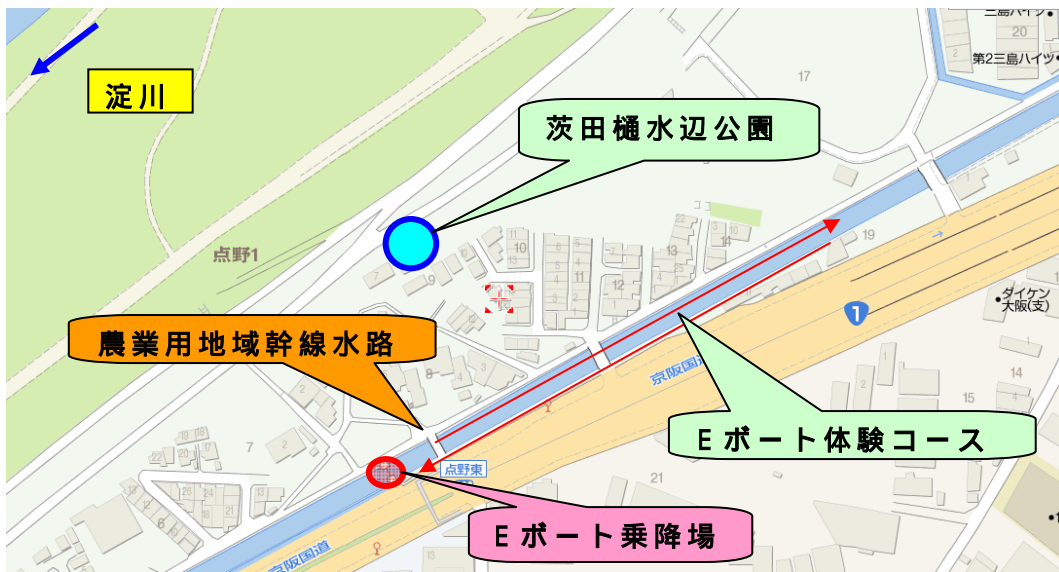
- ・大イチョウから採取した銀杏の実をつかった銀杏(ギンナン)飯、銀杏炒り、トン汁を参加者に振舞う
- ・茨田遺跡水辺公園市民工事、および河川レンジャー活動のパネル展示
- ・関係団体・小学校などのポスターセッション

(4)実施日

平成 22 年 11 月の土・日

(5)実施場所

寝屋川市点野 茨田樋遺跡水辺公園



(6)広報・募集方法

市広報、BYQ イベント情報、チラシ(小学校、地元回覧)
ポスター(地元、寝屋川市内、学校)

(7)協力スタッフ等の人数とその役割

地元自治会、水辺クラブ、河川レンジャー等の共催とする
(実行委員会設置)

事前 銀杏採取・皮むき 自治会・水辺クラブ 15人
ポスター作成など、レンジャー

当日 会場作り 水辺クラブ・自治会など実行委員会 15人
芋入り銀杏飯の炊き出し 自治会 数人
銀杏炒り、トン汁 水辺クラブ・自治会
焼き芋、
Eポート 摂南大・水辺クラブ

(8)必要支援内容

ポスターセッション用、パネル貼り付け板の貸与
雨天の場合の会場用テントの貸与
点野流域センターの駐車場としての利用

(9)活動における河川レンジャーの活動内容

企画運営全般

(10)昨年度の活動を踏まえての改善点

121人参加、団体参加が多くあったがさらに増やしていき、今後の活動の基礎とする

(11)活動を行ううえでの課題等

雨の場合は、Eポートは中止

(12)その他

3. 枚方出張所管内河川レンジャー 荘司 弘之

3.1 活動テーマと活動分野

枚方出張所管内を活動エリアとする荘司レンジャーは以下の活動テーマのもと、1つの活動を実施します。

活動テーマ

「淀川の自然」と「淀川の歴史」を学び淀川の環境保全を地域の人々とともに促進していく活動。

平成 22 年度 活動分野と活動名

活動分野	活動名
河川の環境保全を図る活動	淀川自然観察と歴史を学ぼう ・初夏の淀川河畔林自然観察と 楠葉ワンド見学 ・秋の淀川河川敷自然観察と 淀川の治水を学ぶ

3.2 淀川の自然観察会を通じて淀川の現状と歴史を学ぶ

(1) 活動目的

身近な淀川、初夏ともなれば樹木は新緑に映え、草花も咲き誇り、淀川にも自然豊かな生命の息吹が感じられます。また秋にはオギやセイタカヨシ・ススキなどが繁り四季の移ろいを感じさせてくれます。自然と共に、この淀川がどのような歴史の変遷を経て現在のようになったのか、また淀川の環境を維持向上させていくために、今後どのように淀川とかがかわって行けばよいのかを、地域住民の皆さんと共に考える機会作り、淀川への愛着を高めていただき、淀川の環境保全に少しでも役立つ行動が芽生えていくことを目的として活動を進めます。

平成 22 年度 年間スケジュール

		実 施	準 備 等
平成 22 年	4 月		・実施計画の立案 ・準備(広報・1 回目の下見・ 資料の準備・応援の手配な ど)
	5 月	5 月 23 日(日) 初夏の淀川河畔林自然観察と 楠葉ワンド見学本番実施 併せてワンドクリーン活動実 施	・上旬～中旬 2 回目の下見 ・資料作成、講師・協力スタ ッフとの打ち合わせ
	6 月		
	7 月		
	8 月	(秋の活動準備スタート)	・実施計画立案
	9 月		・準備(広報・1 回目の下見・ 資料の準備・応援の手配な ど)
	10 月	10 月 24 日(日) 秋の淀川河川敷自然観察と 淀川の治水を学ぶ	・中旬～下旬 2 回目の下見 ・資料作成、講師・協力スタ ッフとの打ち合わせ
	12 月	* 反省と次年度活動計画作成	
平成 23 年	1 月		
	2 月		
	3 月		

(2)参加対象者・定員

- ・ 枚方管内中心の流域住民(小学生以下は保護者同伴)
* 特にご家族での参加を歓迎
- ・ 定員は約 30 名/回・・・(自然観察会で説明して対応できる限度)

(3)実施内容

初夏の淀川河畔林自然観察と楠葉ワンド見学

時間：10時～15時 楠葉ワンドにて解散

植物観察 野鳥観察の講師及び水生魚観察講師は後日依頼予定
また全体の安全管理など協力スタッフも依頼予定

- * 牧野より樟葉までの約4Kmを植物観察と野鳥を観察しつつ歩く
- * 途中で3箇所にて「淀川ミニ講座」(荘司R)を実施して淀川の現状や歴史を語る
- * 楠葉ワンドでは ワンドの生物の生態やワンドの歴史や意義などを学んでいく
- * 楠葉ワンド周辺での清掃活動(クリーンアップ)の実施
- * 最後に参加者に一口感想メモなどをいただき今後の活動へ反映させる

秋の淀川河川敷自然観察と淀川の治水を学ぶ

時間：10時～15時

- * 御殿山より川沿いに歩き、淀川河川敷公園では船着場や水位観測所の見学及び、
スーパー堤防などの治水対策についても学び、枚方の出口地区經由京阪光善寺駅までの約6Kmを植物や野鳥中心に自然観察をしながらゆっくりと歩く
- * 歩きながら「淀川ミニ講座」(荘司R)を実施して淀川の現状や歴史を語る
- * 歩きながら適当にゴミ拾いなども実施する
- * 最後に参加者に一口感想メモなどをいただき今後の活動へ反映させる

(4)実施日

初夏の淀川河畔林自然観察と楠葉ワンド見学

実施日：平成22年5月23日(日)

秋の淀川河川敷自然観察と淀川の治水を学ぶ

実施日：平成22年10月24日(日)

(5)実施場所

・・・・牧野～楠葉ワンドまでの河川敷



・・・・御殿山～枚方河川敷公園～出口・伊加賀野草地区～
京阪光善寺駅



(6)広報・募集方法

- * 淀川管内河川レンジャーホームページへの募集案内の掲載
(4月1日～10月23日)
 - * 案内チラシを作成して枚方管内の公民館などにそれを置いてもらう
 - * 地域のサークル活動メンバーへのPR活動実施
EX 淀川自然クラブ、地元の自治会やシニアクラブや子ども会
 - * 友人、知人、地域住民 及び 過去参加者などへの個別PR実施
- ・ 申込締切日： 5月17日(月) 10月18日(月)

(7)協力スタッフ等の人数とその役割

- * 協力スタッフ及び講師はそれぞれ 2~3名
- * 講師・・・植物観察、野鳥観察 及び水生生物解説できる人
- * 役割としては
テーマ では自然観察の説明や参加者の誘導 安全確保など
テーマ では自然観察の説明や参加者の誘導 安全確保など

(8)必要支援内容

国土交通省：活動全般についてのアドバイス(含む 広報活動)

- ・ 資料や案内チラシの印刷
- ・ 河川レンジャーののぼりの借用
- ・ 必要な文房具など(ポストイットやマジックなど)
- ・ ワンドや淀川の環境保全関連のPR資料
- ・ 講師などへの交通費や謝礼

全般について

安全確保についてのアドバイス(歩く道について)、障害保険

(9)活動における河川レンジャーの活動内容

- ・ 各テーマの企画～運営 全般
- ・ 講師・協力メンバーの支援要請と打ち合わせ
- ・ 広報及び参加メンバー確保への尽力
- ・ 淀川の自然観察指導や歴史などの「淀川ミニ講座」の資料作り
- ・ 「淀川ミニ講座」の実施 毎回 15分×3回 約 45分
- ・ 当日の運営と反省やまとめ

(10)昨年度の活動を踏まえての改善点

昨年は子どもたちの参加が少なかったので今年はまだ少しPRのときに地域の子ども会や近くの学校などへのPRにも努めたい
(問題は日程設定 早目の連絡が大切)

- ・ 参加者との対話の時間をもっと持ちたい
(そのためには時間配分を再検討)
- ・ 自然観察会をやりつつゴミもうまく拾えるような工夫
- ・ 今年度で3年目となりリピーターの参加者も多く マンネリ打破
新鮮味作り

(11) 活動を行ううえでの課題等

- ・ 河川敷の自然観察会では雨天の時の対応
- ・ トイレの確保問題（特に楠葉ワンド付近）
- ・ 自然観察中心の地味な活動の中で参加者にとって参加して良かったと思っただけのための創意工夫

(12) その他

河川レンジャー活動の PR も兼ねているいろいろな場で淀川とのかかわりを増やしていきたい。

- ・ 淀川の自然を楽しむ会への参画
- ・ 地域での淀川ハイキングの実施
- ・ 他の河川レンジャー活動への積極的な協力活動参加

4. 枚方出張所管内河川レンジャー 瀬野 卓男

4.1 活動テーマと活動分野

枚方出張所管内を活動エリアとする瀬野レンジャーは以下の活動テーマのもと、2つの活動を実施する。

活動テーマ

【1】淀川環境保全、利用を啓発する活動

昨年くずはワンドが新たに増設されて1年が経過して平成21年度は牧野ワンドも増設された。ワンドにおける魚、植生などの様子や淀川のワンドの再生についての取り組みの講座とワンドの見学会を6月中旬に実施する。

また市民と話し合い親しまれるくずはワンドを育む活動を推進する。
(平成22年4月に具体的方策を検討する。)

枚方地区の淀川において磯島～牧野までの自然観察会、藤本川ポンプ場の見学会を実施する。但し4月に決めるくずはワンド活動の対応により実施の可否を決める。

【2】淀川の自然、景観を啓発する活動

枚方から八軒家浜までの舟運による自然、文化、施設を学ぶ見学会を開催する。

枚方地区の淀川環境についてなぎさ高校で出前授業をして、淀川の自然、景観などを啓発する。

平成 22 年度 活動分野と活動名

活動分野	活動名
淀川の環境保全を啓発する活動	くずはワンドの見学会
	磯島～牧野までの自然観察会、藤本川ポンプ場の見学会(内容は未定)
淀川の自然景観を普及する活動	枚方～八軒家浜までの舟運による淀川の自然、文化の見学
	淀川の自然景観について枚方地区の特徴を把握する なぎさ高校で出前授業を実施

4.2 淀川の環境保全、利用を啓発する活動

		実 施	準 備 等
平成 22 年	4月		くずはワンド見学会 準備 広報 講師 小川力也氏 参加者募集
	5月		
	6月	くずはワンド見学会	くずはワンドを育む市民活動 は未定 (実施は4月に決定)
	7月		
	8月		磯島～牧野河川敷観察会 藤本川ポンプ場見学会の準備 (実施は未定)
	9月		磯島～牧野河川敷観察会 藤本川ポンプ場見学会の準備 広報 (実施は未定)
	10月	磯島～牧野河川敷観察会、 藤本川ポンプ場見学会 (実施は未定)	
	11月		
	12月		
平成 23 年	1月		
	2月		
	3月		

くずはワンドの見学会

(1)活動目的

くずはワンドの再生計画について講習会、見学会を実施してワンドについて説明する。

(2)参加対象者・定員

- 1)一般公募、淀川や環境についての関係者
- 2)定員は 30～50 名

(3)実施内容

くずはワンドの再生計画について講習会、見学会

(4)実施日

平成 22 年 6 月中旬

(5)実施場所

くずはワンド



(6) 広報・募集方法

- 1) 広報 ポスターを生涯学習市民センター等に掲示する。淀川自然クラブ、前回参加者に案内する。
- 2) 河川レンジャーのホームページに掲載
- 3) 枚方市ホームページに掲載
- 4) 参加者受付は河川レンジャー中央流域センターの電話、ファックス、葉書とする。

(7) 協力スタッフ等の人数とその役割

- 1) 協力スタッフ レンジャー協力者として2名程度 人選は未定
- 2) 役割 講座の会場準備、受付、資料準備など。
写真展の写真受付、名札等の準備、展示及び撤去。
フィールドワークの引率と安全誘導。
講座講師 小川力也氏
淀川自然観察講師 別途人選する。

(8) 必要支援内容

- 1) レンジャー名刺手配。連絡先をレンジャー事務所とする。
- 2) 広報活動 河川レンジャーのホームページに掲載。
- 3) チラシ、ポスターの印刷。
- 4) チラシ、ポスターの河川関連部門への配布。
- 5) 参加者の受付。
- 6) 実施計画の作成にあたり、枚方市環境部門、生涯学習市民センターとの連携。
実施計画作成の助言。実行予算の設定の支援。
- 7) 講師、現地案内人の人選。
- 8) 講座、現地フィールドワークの河川レンジャーののぼり。
- 9) 講座日の受付。資料配布、アンケート回収のお手伝い。

(9)活動における河川レンジャーの活動

- 1)実施計画の設定。安全管理計画の作成。
- 2)枚方市環境管理部門、会場の楠葉生涯学習市民センター、枚方市の後援申請をする。
- 3)チラシ、ポスターの作成。配布。
- 4)講師の人選と準備とその折衝。
- 5)アンケートのまとめと活動の問題点把握。来年度の計画を検討する。
- 6)講座の準備、会場設営。
- 7)協力スタッフと連携する。

(10)昨年度の活動を踏まえての改善点

ワンド見学の説明をワンドの状況を見て丁寧に時間をかけて説明。投網を打てない状況であるので淀川資料館に魚の資料等準備をお願いする。
参加者が座って聞けるものとする。

(11)活動を行ううえでの課題等

- 1)淀川自然クラブとの連携によりワンドの再生計画など生涯学習市民センターにて講演会を開催して午後にワンドを見学する。
開催日は土曜日とする。
- 2)実施計画の設定にあたりは安全管理、予算管理、日程管理を十分に行い関係者とよく話し合う。特に講師、協力スタッフと事前に連携して参加者に共感が得られる時間配分とする。参加者から意見を聞く見学会にして市民とともにワンドが育み生かされるように努める。

(12)その他

牧野ワンドも増設された。くずはワンドの意義を説明して淀川の環境保全について市民から協力をお願いして4月には河川事務所をはじめ関係者と協議して単なる見学会に終わることなくレンジャー活動のレベルを高めたい。

磯島地区淀川河川敷、牧野ワンド、藤本川ポンプ場の見学会

枚方地区の淀川の特徴として磯島、牧野ワンド付近の味わうことが大切であると考えます。

特にこの見学会には参加者の対象を前回参加者から地域の幅を拡大したい。

この見学会の実施の可否については、くずはワンドの取り組みによって実施の可否を決める。

4.3 淀川の自然、景観を啓発する活動

平成 22 年度 年間スケジュール

		実 施	準 備 等
平成 22 年	4 月	舟運の実施 4 月 8 日	
	5 月		
	6 月		
	7 月		
	8 月		枚方市環境ネットワークと高校と日程、内容を打ち合わせる
	9 月		
	10 月		
	11 月		出前授業の資料作成
	12 月	なぎさ高校の出前授業の実施	
平成 23 年	1 月		
	2 月		
	3 月		

枚方～八軒家浜までの舟運による淀川の自然、文化の探索

(1)活動目的

枚方から八軒家浜まで屋形舟に乗り淀川や町並み、自然、河川施設を眺めて淀川の特徴を考え発見する活動である。丁度、平成 21 年度は淀川改修 100 周年の年にあたり、明治 18 年の淀川大洪水の記念碑を見て新淀川の開削、淀川大堰の設置、瀬田の洗堰の建設など改修工事を説明する。淀川から見る景色は鉄道、道路などから見る景色とは異なり新たな淀川を発見して頂き今後の取り組みを説明します。

特に枚方くらわんか船に関係深い枚方から乗船していただきます。

本活動は、地元の活動団体の「淀川自然クラブ」と連携して取り組んでいきます。

(2)実施対象者・定員

連携団体：淀川自然クラブ会員を中心とした一般応募者。

屋形舟乗船定員：40 名

(3)実施内容

明治 18 年の淀川大洪水記念碑を見学後、淀川管内河川レンジャー 中央流域センター多目的ホールにて淀川の歴史、文化、自然や淀川改修 100 年の概要とこれからの取り組みを説明する。その後、14:00 に枚方船着場よりチャーターした屋形舟(手配は淀川自然クラブ)に乗船し、淀川を下りながら川中から淀川を見学。毛馬の閘門を経て大川に入り、桜を見ながら八軒家浜に到着する。

乗船中は、船上から淀川の景色、淀川大堰、ワンド、河川敷などを案内する。

(4)実施日

平成 22 年 4 月 8 日(木) 14:00～16:00 乗船 小雨決行

(5)実施場所

枚方から八軒家浜



(6)広報・募集方法

生涯学習市民センターにチラシを掲示するなどとともに、希望があった淀川自然クラブに別途メールにて案内する。

(7)協力スタッフ等の人数とその役割

- 1)協力スタッフ1名 講師2名 他
- 2)役割 安全誘導、資料、レンジャー旗
- 3)安全誘導、舟の中で気分が悪くなる人の誘導
- 4)双眼鏡を準備するように連絡する

(8)必要支援内容

資料のコピー

(9)河川レンジャーの活動

- 1)連携団体：淀川自然クラブとの実施計画立案、役割分担等、詳細の調整
- 2)活動時の安全確認
- 3)毛馬の閘門の水位の状態を確認して参加者に連絡する
- 4)舟の持ち込み品の確認
- 5)各ポイントでの淀川についての解説

(10)昨年度の活動を踏まえての改善点

舟運は今年度が最初

(11)活動を行う上での課題

物見遊山でなく、レンジャー活動として参加者に対して淀川を普段と異なる観点で見つめて淀川を再発見していただけるように努める。

淀川の自然景観について枚方地区の特徴をなぎさ高校で出前授業の実施

(1)活動目的

淀川の自然景観について枚方地区の特徴をなぎさ高校で出前授業する。枚方環境ネットワークの環境部会と共催して淀川に近接高校生、関係者に淀川を理解していただく。

(2)実施対象者・定員

なぎさ高校生徒 30名

(3)実施内容

なぎさ高校で淀川の環境について淀川の写真で説明する。枚方地区の特徴を解説する。

寝屋川から八幡までの淀川を4地区に分けて祖節、自然、河川、公園、橋、記念碑、ワンド等について説明する。

(4)実施日

平成22年12月中旬

(5)実施場所

枚方なぎさ高校



(6) 広報・募集方法

枚方環境ネットワーク会議と高校と打ち合わせる

(7) 協力スタッフ等の人数とその役割

- 1) 協力スタッフ 1名
- 2) 役割 写真撮影、編集

(8) 必要支援内容

- 1) 写真と淀川の特徴をつかむ 資料調査
- 2) 写真のコピー

(9) 河川レンジャーの活動

- 1) 淀川の写真撮影、編集
- 2) 関係者に特徴を説明

(10) 昨年度の活動を踏まえての改善点

昨年は生徒に熱心に聞いて貰えた。アンケートの結果から感想は淀川に知らないことをたくさん聞いて楽しく学んだというものが多かった。淀川に近接して毎日淀川を見て学んでいる生徒に学校で学べない淀川の役割を教えたい。

説明の時間が短く十分に話したいことが言えなかったので、今年度は簡潔に要点を伝えていきたい。

(11) 活動を行う上での課題等

洪水の歴史とその取り組みについて先人の努力を伝えたい。枚方管内でワンドが増設されている理由と淀川に生存している自然、ワンドについて分かりやすく話したい。

(12) その他

出前授業も4年目になり最初の生徒は今年卒業していく。淀川に接している生徒に伝えたいことはたくさんあるが、卒業後も生涯印象に残る事柄を学校関係者と打ち合わせをして、淀川の意義・課題を話したい。

5. 枚方出張所管内河川レンジャー 山口 進

5.1 活動テーマと活動分野

枚方出張所管内を活動エリアとする 山口レンジャーは以下の活動テーマのもと、3つの活動を実施します。

活動テーマ

琵琶湖・淀川流域での環境保全活動とネットワークづくり

平成 22 年度 活動分野と活動名

活動分野	活動名
河川の環境保全を図る活動	庭窪ワンド自然観察会(野鳥、植物観察など)又は勉強会(浄水場の見学など)
	庭窪ワンド付近清掃活動(外来種植物除去含む)
河川レンジャー活動に関するニュース等の情報発信(ネットワークづくり)	琵琶湖・淀川流域各地の活動内容等の情報共有を行うべく、市民・企業・NPO・行政との協働ネットワークづくり (メーリングリスト、ホームページ作成等)

5.2 琵琶湖・淀川流域での環境保全活動とネットワークづくり

(1)活動目的

私達の命の源である「水」、1400万人の水供給をしている「琵琶湖・淀川水系」での「水環境」を地域の人達と一緒に考えて行きたい。

そのために、淀川の水環境を知っていただく「気づき」の場を提供、具体的な「行動(アクション)」の場を提供、活動内容を「つなぐ(ネットワーク)」活動を行います。水環境の実態を知ることにより、生活排水を注意したり、使用量を抑えようとか、ライフスタイルの見直しなどの行動につながると考えます。そしてそれぞれの行動をネットワークすることにより、自然との調和ある社会が実現されるものと信じています。

平成 22 年度 年間スケジュール

		実 施	準 備 等
平成 22 年	4 月	浄水場見学とワンド散策	2月迄に実施計画 3月中に広報準備、 協力スタッフ手配、講師依頼、 資料作成、講師、スタッフと の打ち合わせを予定
	5 月		
	6 月	庭窪ワンド外来植物駆除作業	ワンドクリーン大作戦連携
	7 月		
	8 月		
	9 月	庭窪ワンド付近清掃活動	メイクアップロード連携
	10 月		
	11 月	庭窪ワンド外来植物駆除作業	
	12 月		
平成 23 年	1 月		
	2 月	庭窪ワンド自然観察会(野鳥)	ネットワーク交流会
	3 月		

(2)参加対象者・定員

各活動全て一般地域住民対象で定員 20 名

(3)実施内容

浄水場見学とワンド散策(4月)

勉強会と散策

庭窪ワンド外来種植物除去活動(6月)

淀川ワンドクリーン大作戦連携 ワンド内の外来種植物除去作業

庭窪ワンド付近清掃活動(9月)

大阪府メイクアップロード連携 清掃活動

庭窪ワンド外来種植物除去活動(11月)

ワンド内の外来種植物除去作業

庭窪ワンド自然観察会(2月)

ネットワーク交流会 野鳥観察

(4)実施日

浄水場見学とワンド散策(4月)

庭窪ワンド外来種植物除去活動(6月)

庭窪ワンド付近清掃活動(9月)

庭窪ワンド外来種植物除去活動(11月)

庭窪ワンド自然観察会(2月)

(5)実施場所

庭窪ワンド付近
外来植物除去範囲



(6)広報・募集方法

守口市、門真市広報
門真エコネットワーク連絡会 参画団体への呼びかけ
河川レンジャーHP など

(7)協力スタッフ等の人数とその役割

各活動

協力スタッフ 2名 (写真撮影記録 1名、備品運搬協力 1名)

(8)必要支援内容

資料一式

自然観察会での講師費用(植物と野鳥に詳しい専門家)

外来種植物除去に使用する備品

(清掃用具一式、長靴、胴長靴、ゴミ袋など)

ボランティア保険加入

備品搬出搬入のための乗用車乗入れ許可

(9)活動における河川レンジャーの活動内容

実施計画の立案

講師・スタッフの手配、連絡

広報活動

資料作成

用具手配、準備

当日の運営

(10)昨年度の活動を踏まえての改善点

外来種植物駆除の時期などの決定(大阪府水生生物センターと協働)

清掃(駆除)作業の役割分担と事前調整

(11)活動を行ううえでの課題等

参加者の安全面を注意したい。

(12)その他

特になし。